

果実の収穫適期の把握と専用カラーチャートの開発 (第2報) ^{*1}

小林 和司^{*2}・宇土 幸伸^{*2}・富田 晃^{*2}・萩原 栄揮^{*2}
鈴木 文晃・串田 賢一・飯田 敏博^{*3}・弘中 達也^{*3}

Development of the Color Chart and a Dedicated Grasp of Proper Time of Harvesting of Fruit (2nd Report)

Kazushi KOBAYASHI, Yukinobu UDO, Akira TOMITA, Eiki HAGIHARA,
Fumiaki SUZUKI, Ken'ichi KUSHIDA, Toshihiro IIDA and Tatsuya HIRONAKA

本県特産のブドウとスモモでは、果皮色や味がバラエティーに富んだ様々な新品種が登場している。しかし、品種ごとに色合いが異なり、外観による収穫時期の判断が難しい。未熟で食味の悪い果実や、過熟で日持ちの悪い果実など収穫時期が適切でない果実の出荷が行われると、山梨県産の果実のイメージが低下する恐れがある。

そこで、果皮色を基準に収穫適期を判断できるカラーチャートを作成し、県下で統一した基準での適切な収穫時期の果実が出荷できる体制を整備する必要がある。そのため、品種ごとに収穫適期の目安を明らかにし、生産者が圃場で簡単に利用できるカラーチャート板の開発を行った。

今年度はサニードルチェ（ブドウ）とサマーエンジェ

ル（スモモ）のカラーチャートの開発を進めた。サニードルチェについては熟成の各時期に撮影した果粒の写真データを、サマーエンジェルについては果樹試験場で測色された果皮色の $L^*a^*b^*$ 値を基礎データとした。これら取得したデータをもとにして、画像編集ソフトを用いてチャート色の作成を行い、ともに5段階のカラーチャートを試作した。

また昨年度開発を進めたシャインマスカットのカラーチャートについては、製品化に向けてのデザイン開発を行い、4案のデザイン案を作成した。これらから圃場での使用や量産性などを考慮した結果、横長矩形の案を採用することとし、実際に製作を行った。

*1 平成 23～24 年度に行った総理研研究（山梨県総合理工学研究機構研究テーマ）

*2 山梨県果樹試験場

*3 一般社団法人山梨県情報通信業協会